

Review

服薬アドヒアランスを考慮した2型糖尿病治療 ～「Dr. 自分」を育み、服薬遵守率95%以上をめざすための取り組み～

特定医療法人和風会中島病院

中島弘文

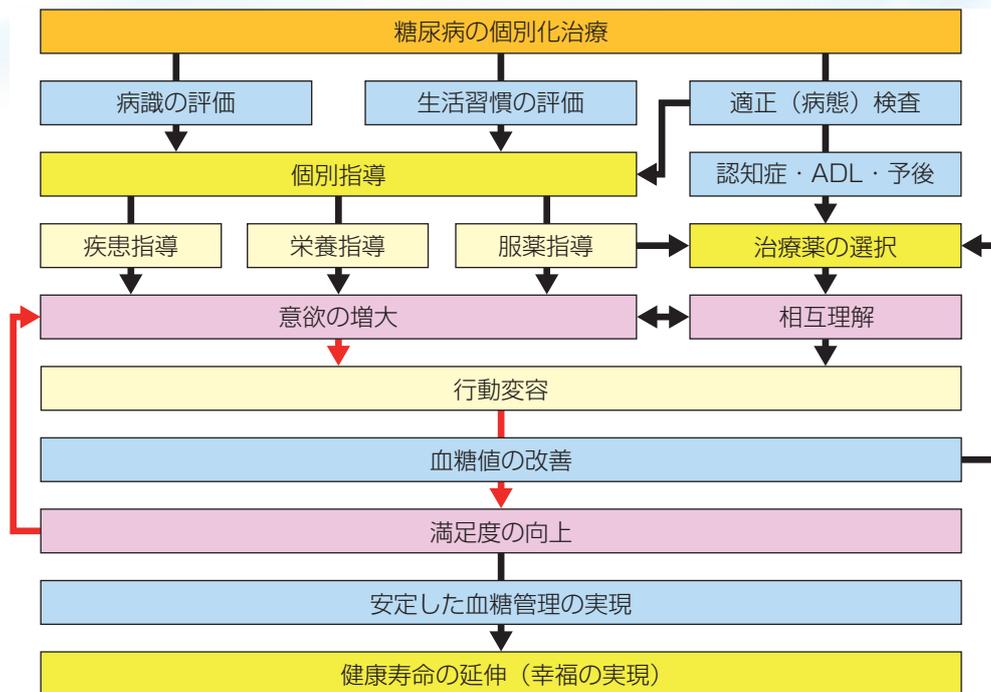
はじめに

糖尿病の治療の目標は、良質な血糖管理を実現することにより、合併症の発症を防止し、生活の質を維持し、健康寿命を延伸することである。糖尿病患者の高齢化も相まって、その目標を達成するためには治療の個別化が大切となっている。年齢、予後、認知機能、身体的機能、合併症の状態、インスリン分泌能、肥満度、腎機能などの病態に合わせた治療薬の選択をおこなうだけでなく、生活習慣上の問題点に応じて食事療法・運動療法・服薬指導などの療養指導を個別化しなければならない(図①)。適切な療養指導をおこなうことで治療意欲を向上させて行動変容につなげ、良質な血糖管理を実現することにより治療満足度を高め、合併症を予防し、健康寿命を延伸していくことが目標となる。

中島病院(以下、当院)では糖尿病患者に対する個別指導を効率的におこなうために、2013年には疾患認識度、2014年には生活習慣に関する調査を糖尿病患者1,000名アンケートとして実施した。疾患認識度が低い患者には疾患指導を、間食などの

食生活に問題がある患者には栄養指導を、服薬に問題がある患者には服薬指導や内服薬の見直しをおこなうための取り組みであった。2014年のアンケート結果から、血糖管理に関係する生活習慣の一つが服薬の遵守率であることがわかった(その他の要因は、規則正しい食事と夜食の有無)。そこで2016年に服薬状況に関係する詳細なアンケート調査をおこない、服薬遵守に関係する背景因子、一包化や合剤やお薬カレンダーの有効性の評価をおこなうとともに、血糖管理を良好に維持するための服薬遵守率と遵守率の検討をおこない、報告した¹⁾。

服薬遵守と血糖管理に関して、Gordonら²⁾は服薬遵守が良好な群が不良な群よりも血糖管理がよいことを、山川ら³⁾は血糖管理の良好群が不良群よりも飲み忘れ率が低いことを報告している。このように服薬の遵守状況が血糖管理と関係することはいくつか報告されているが、どの程度の割合で服薬ができていたことが必要なかを明確にしたものはなかった。われわれの検討¹⁾では「服薬遵守率で95%以上」、「服薬はほとんど忘れない」ことが血糖管理を良好に維持するために必要との結論に至ったが、その調査結果を示しながら服薬アドヒアラン



図① 糖尿病における個別化治療の意義

スの大切さを考えてみたい。

服薬遵守が完璧にできている割合は47%で、働き盛りの男性が遵守不良

当院に通院中で認知症のない1,022名の糖尿病患者に服薬状況のアンケートをおこなった。外来での自己記入式のアンケートであるため、回答不能な認知機能障害者は除いた結果である。症例数は1,022名、男性が54%、平均では年齢が71.0歳、糖尿病の罹病期間が13.0年、HbA1cが6.7%、全薬剤数は7.8錠、糖尿病治療薬が2.1錠、服薬回数が2.3回であった。服薬遵守度は「忘れることはない：5点」から「しばしば忘れる：1点」までの5段階の、服薬遵守率に関しては明確な数値(%)での自己評価とした。

「内服・注射を忘れることがありますか？」との質

問に対する回答率は「服薬を忘れることはない」が47%、「ほとんど忘れることはない」は28%であり、忘れることがあるのは25%であった(図②)。服薬遵守が不良となる原因は①男性、②働き盛りの世代であり、良好となる要因は①1日1回の服用、②一包化であった(図③)。1日4回はインスリン強化療法を実施している患者群であり、有意差はないものの1日2回や3回よりも遵守度は良好となっていた。認知機能障害者を除いた場合は、年齢が高くなるほど服薬遵守ができているとの結果であり、これは上島ら⁴⁾の報告と合致している。当院では複数回の服薬遵守に関する検討をおこなっているが、調査対象の平均年齢が低くなると服薬遵守が良好な割合は低下していた。その一つに服薬遵守度と残薬の関連性を別調査で検討したものがあ。平均年齢が66歳の調査であったが、「服薬を忘れるこ

会員限定コンテンツのため、med パス会員にご登録、
またはログインが必要になります。

